

■夢の実現へリニア中央新幹線 62
開業を迎える北陸新幹線「白山総合車両所」

「リニア中央新幹線」計画についてシリーズでお伝えしています。

今月は、3月14日に開業を迎える北陸新幹線の「白山総合車両所」について紹介します。

問リニア対策課（☎内線214）

白山総合車両所（石川県白山市）

白山総合車両所のある白山市は、石川県加賀地方の中央部、県都金沢市の南西部に位置し、霊峰白山、そのふもとを源とする手取川、白砂青松が続く日本海など、豊かな自然と美しい景観に抱かれ、四季折々の表情が楽しめるまちです。

白山総合車両所は北陸新幹線および北陸本線に並行する形で田園地帯に設置された盛土構造の車両基地で、金沢駅から福井方面に向かって約10kmの場所に位置し、北陸新幹線金沢駅延伸開業時から供用されます。

開業後は金沢駅から白山総合車両所までの区間は回送線として使用され、金沢以西への延伸後はこの区間も営業線に組み込まれる予定となっています。



広大な田園地帯に設置された白山総合車両所

白山総合車両所の概要

白山総合車両所は、日本で4つめの新幹線総合車両基地となり、車両の留置や日常点検（仕業検査・交番検査）を行う車両基地と、自動車の車検にあたる台車検査・全般検査を行う工場設備を併せもった施設（検査工程は下表を参照）です。敷地面積は約26ha（長さ約2.4km、最大幅約250m）となり、9線の着発収容線庫、

車体検修・塗装場、仕業・交番検査庫、台車・輪軸検修場、臨修庫、変電所などが備えられています。

北陸新幹線は、冬に雪が多く降るため、車両を留置する車庫は屋根付きになっているほか、車両（特に床下）に付着した雪を温水で溶かす設備が一部に備わっています。

現在は、開業を間近に控え、北陸新幹線の「W7系」※の試験走行や、開業後の整備・検査の訓練などが行われ着々と準備が進められています。



白山総合車両所車体検修・塗装場

総合車両所での検査工程

検査名	主な検査内容
仕業検査 (2日に1度)	高速走行を終えた部品の点検、ブレーキ装置やATC（自動列車制御装置）、ドア開閉装置など、重要な保安機器の動作チェック
交番検査 (3万kmまたは30日以内)	重要な保安機器のカバーを取り外し、内部の状態、動作、機能の検査確認
台車検査 (60万kmまたは18ヵ月以内)	超音波および磁粉による車輪廻りの探傷
全般検査 (120万kmまたは36ヵ月以内)	細部における車体と機械の検査および機械の動作確認試験やATCの機能検査
臨時検査・修繕	車両に不具合が生じたとき、必要に応じて行う

※昨年3月に長野新幹線で先行デビューしたJR東日本の北陸新幹線車両「E7系」のJR西日本所属バージョン。W7系の「W」は「West」の略。なお基本的に外観や仕様は「E7系」と同一となっている。

取材協力 鉄道建設・運輸施設整備支援機構、JR西日本、白山市